

コラム⑧ 地域と連携した冬みち対策の取り組み

～砂入りペットボトル作製～

北区土木部維持管理課

札幌市では、市民の雪対策への関心や要望が高い一方で、除雪従事者の不足や、除雪機械・ダンプトラックの確保の困難化など、除排雪を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、さらには、少子高齢化の進行により除雪に係る地域の負担感が増加するなど、地域の除雪において新たな課題が生じています。これらの課題の解決に向けては、行政の力だけでは限界があるため、地域力を生かした様々な冬みち対策を進めています。

その一環として行っている「砂入りペットボトル作製」は、地域と北区土木部が協働で取り組む冬期間の凍結路面の転倒防止対策として、平成23年度から実施しているものです。

この取り組みでは、本格的な降雪を迎える前の9月～11月にかけて、町内会、高齢者団体や高校生、小学生まで多くの方にご協力いただき、500mlのペットボトルに砂を詰める作業を行っており、平成30年度は20団体で約9千本を作製しました。作製した「砂入りペットボトル」は、区役所やまちづくりセンター、地区センターなどに冬期間設置され、地域の方々に利用していただいています。

「砂入りペットボトル」は、砂箱に入っている砂袋に比べると持ち歩きしやすいので、近くに砂箱が無いところでの安全確保など、ツルツル路面对策として非常に有効な取り組みとなっています。

札幌市では、将来のまちづくりを担う子どもたちが札幌の雪対策や冬の暮らしに関心を持ち、除雪に対する意識が浸透するよう、小学生を対象とした雪体験授業も近年実施していますが、その中でも体験学習メニューとして「砂入りペットボトル作製」を取り入れています。授業の一環として「砂入りペットボトル」を実際に作製し、通学路等の歩道上で滑りやすくなっている箇所を見つけて「砂入りペットボトル」で砂をまいてみることによって、砂まき活動への参加意識を身に付けたり、砂まきの効果を実感してもらうことを期待して取り組んでいます。

このほかにも北区では、砂箱の寄贈、春の清掃を含めた民間協力による一年を通じた凍結路面对策も推進しているところであり、今後についても、このような取り組みを通じて、学校や企業を含めた地域と行政が連携し、より良い冬期道路環境を共に目指していきたいと考えています。



区内の小学校で地域住民の方も参加して行われた砂入りペットボトル作製の様子

【お問い合わせ】 北区土木部維持管理課 TEL. 011-771-4211